

3月の野菜の見通し

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
だいこん	13,300	98	12,861	79	101	89	0.3	0	神奈川、千葉産中心。両産地ともに秋冬作は大幅前進のため、現状例年より減少ペースは速まっている。神奈川産の春作はやや前進、千葉産は平年並みの生育ペースと予想される。秋冬作の切りあがり早いことから、予想入荷量は前年より微減。価格は前年並みだが平年よりやや安い見込み。3月は春商材への移行により販売も落ち着き、上旬の相場は弱含みの展開も、下旬は入荷量減により上げ基調強まる見込み。
はくさい	8,212	前年並み	8,627	75	100	86	0.1	0	茨城、兵庫、群馬産中心の入荷となる。茨城産秋冬作は生育早まり、切りあがり早まる見通し。春作は3/20頃から販売開始の予定。春作の生育もやや進んでおり、大きな入荷の谷間はない模様。兵庫産のレギュラー品は3月上旬までまとまった量が入荷し、中旬から冷蔵物が始まる。総入荷量は少なかった前年並み。価格も前年並み。中旬は秋冬作の減少で上げ気配強まり、下旬は春作のスタートと兵庫産の冷蔵物で相場は底上げ。
ほうれんそう	1,525	103	1,554	462	91	382	2.5	0	茨城、群馬、千葉、埼玉産など関東もの中心の入荷となる。天候安定しないが各産地とも生育は全体に前進しており、播種作業も順調に進んでいる。今後は気温上昇と日照量の増加で3月は入荷順調の見込み。群馬産はハウス再建による作付増もあり、総入荷量は前年から微増。2月前半の高値反動から下げ足早く、月替わりの相場は前年を下回り、月トータルの価格も前年を下回る(平年よりは高い)。中旬に増量を見込んで下げに入るが、下旬には浮上する見込み。
キャベツ類	19,246	95	17,724	76	105	96	2.9	0	愛知、千葉、神奈川産中心の入荷。愛知は冬系、春系ともに平年より生育進んでおり、3月も切れまなく順調入荷する見込み。千葉産の秋冬作は2週間以上進んでおり、春作が本格化するまで前年より少なめの状態がつづく。神奈川産も出荷前だおし傾向にあり、作型間の繋ぎもスムーズで入荷量前年並みと予想される。総入荷量は前年を下回り、価格は前年を上回るが、平年よりは安い見込み。上旬は秋冬作の減りこみで上げ気配高まり、下旬は春系が本格化し一段上げ。
ねぎ	4,275	102	4,352	254	106	280	21.7	1	千葉、埼玉、茨城産など関東もの中心の入荷となる。関東産は早い産地では3月中旬以降から春ねぎが出荷開始の見通し。全体的に生育進んでいるが、気温高による病害発生と抽苔の懸念もあることから、出荷、前倒し傾向と予想される。太物比率が高いことから、総入荷量は前年より微増だが、中国産の入荷減と国産品下等級の底上げもあり、価格は前年を上回る見込み。相場の流れは秋冬ねぎの減少にともない中旬以降上げ気配高まる。
きゅうり	5,715	105	5,959	402	73	323	0.4	0	群馬、埼玉、千葉、宮崎、茨城産中心の入荷となる。群馬、埼玉のハウスは完全復興となり作付増。3月中旬以降、関東産の春きゅうりは増量にむかい、各産地出そろ。西南暖地の冬春長期作の生育も概ね順調に推移しており、徐々にトップシーズンを迎える。ハウス復興もあり、総入荷量は前年を上回り、価格は前年より大幅に安い。2月の高値疲れと増量により、後半ほど販売厳しい見通し。
トマト	5,882	前年並み	6,109	514	84	435	0.1	0	熊本、栃木、愛知、千葉、茨城、埼玉産などの入荷となる。春作、長期作とも2月より入荷量は増量に向かうが、九州産は天候不順の影響大きく、増量ペースは鈍い模様。関東、愛知産は、平年作の見込み。今後の天候次第だが、総入荷量は少なかった前年並み、価格は高騰した前年を下回るが平年並みの見込み。春商材、サラダ商材としての売り込み活発化により、上旬は上げに転じるも、中旬以降は増量に伴い下げながらの展開となる。